

秋田車両センター構内作業計画業務の委託に関する申し入れ、交渉終了!

今回の提案は、SG・NG二つの構内を持つという秋田車両センターの特性やJARS担当者の業務量を鑑み、構内作業計画業務(構内運用計画業務)が委託されても安全が脅かされない体制づくり、JR本体とJARSとでいかに人材育成・技術継承していくのかという課題から5項目申し入れ交渉しました。

1. 施策実施後の当直の作業ダイヤを明らかにすること。

組合

○当直補助は自分たちが就寝中の当直の作業を見ていない中で不安がある。教育・説明をすること。
○繁忙期や異常時は日中時間帯も対応に追われ休憩が取りづらい。しっかり休めるように配慮してもらいたい。

●教育は行っていく。不安があればその都度話してほしい。
●運用が乱れ場合は、当直だけでなく検修社員にも苦勞してもらっている。超勤や休日出勤が多いと聞いているので現場に指導していく。

会社

確認：施策実施前に不安解消のために教育・説明をしていく!

2. 施策実施後もスムーズに業務運営ができるように、JR秋田鉄道サービスにおいて構内運用計画業務と作業計画書作成業務の担当者を分けること。

組合

○業務量が多く異常時は列車の運行に支障をきたしかねない。安全レベルを低下させてはいけない。
○JARSで検討していることはあるのか。
○担当者の年齢も考慮して頂きたい。負担軽減・働きがいをどうしていくのか。

●支障ないと考えている。平成25年度作業計画書作成業務を委託後、作業も追加されているので作業ダイヤを検討するようにJARSへ要請している。
●1名配置する聞いている。人を増やせば要員費がかかるのでJARSの判断になる。
●安易に人を増やすということではなく、様々な方法があると思う。意見を踏まえて引き続きアドバイス行っていく。

会社

確認：JARSの意見を踏まえ、アドバイスしていく。

3. 構内を熟知した人材を育成するために教育の充実を図ること。

確認：課題としては認識している。研修対象範囲を拡大したり、職場実態に合わせた教育など工夫していく!

4. 本体からの出向に頼らない体制とするために、JR秋田鉄道サービスにおいて技術継承ができる体制とすること。

確認：認識は同じ。フロパーを育成してきた。今後は信号扱いや計画業務も担ってもらう。

5. 施策実施後に検証し、問題が発生した場合は速やかに議論すること。

確認：これまで作業分担に曖昧な部分があったのでJARSと議論検討していく。クオリティ高い作業ができるようにJARSと打ち合わせを継続していく!

施策実施後も安全・健康・働きがいの視点で検証していこう!!